

# プロジェクト課題活動実績

## 課題名：園芸産地が主体となった就農受入体制の強化と産地拡大

美祢農林水産事務所農業部 チーム員：◎篠原 裕尚、○兼常久美子、吉本 央、  
熊谷 恵、松田 朋子、西 隼太郎  
稲葉 俊二

### <活動事例の要旨>

将来にわたり園芸産地を維持・発展させるために、次代を担う新規就農・就業者の継続した確保育成を行うため、生産部会組織が主体となった受入体制の強化を図っている。

管内では、秋芳梨組合の取組を拡充させるとともに、先行の生産部会組織の取組を参考に小野田アスパラ部会での取組をすすめ、研修受入れ体制の構築がなされた。

### 1 普及活動の課題・目標

美祢農林水産事務所管内では、地域の気象・条件を活かし、園芸産地化が図られてきたが、近年、生産者の高齢化によるリタイヤ等で、担い手の減少が進んでいる。

将来にわたり園芸産地を維持・発展させるためには、次代を担う新規就農・就業者の継続した確保育成が必要であり、それには、生産部会組織が主体となった受入体制の強化が重要である。

このため、これまで新規就農者への園地継承を行ってきた秋芳梨生産組合の取組を拡充するとともに、生産面積の増加が見込まれる小野田アスパラ部会の取組をモデルとして位置づけ、関係機関との連携の下、産地が主体となった新規就農者の募集から定着までの一貫した受入体制の強化を進め、産地の拡大を図る。

目標項目	基準年R2	実績 R3	目標R5
部会組織が受入れた新規就農・就業者の数（人） （募集・研修の実施含む）	—	1	5
梨組合が主体となったなし園地継承数（戸） （H28～R2の累計）	3	4	5
アスパラガス出荷量（t）	21	22	30
新規就農者を受入れた部会組織数	1	2	4

### 2 普及活動の内容

当プロジェクトでは、自主的に新規就農者獲得及び育成・定着に向けて活動出来る生産部会組織を育成するために、先行取組組織を設置・育成し、その成果を地域へ波及させることで取組を加速させることを目的とする。そのため、以下の課題に取り組んだ。

#### (1) 新規就農者の受入れ体制整備

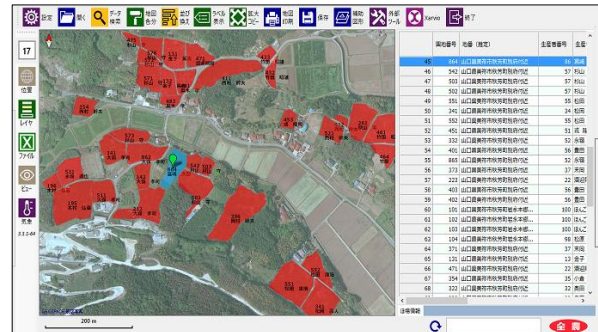
就農モデル作成し、安定経営を提案するための既存就農者の経営検証と儲かる経営に向けての改善指導に取り組んだ。

#### ア 秋芳梨組合

・新規就農者の経営状況を参考に、市町の新規就農者の所得目標が達成できる経営

指標を作成中。

- ・組合員に今後の営農意向調査アンケートを実施し、継承可能な園地について、今後の継承に向けたマッチング支援を行った。また、地理情報システムを活用し、園地や生産者の情報を整理した産地台帳を作成し、梨組合へのシステム導入を支援した。



地理情報システムを活用した産地台帳

## イ 小野田アスパラ部会

- ・新規就農者の経営状況を参考に、市町の新規就農者の所得目標が達成できる経営指標を作成し就農モデルとした。また、部会員に今後の営農意向調査アンケートを実施し、後継者の有無や栽培中止後の施設・農地の委譲意向を確認し、担当者レベルでの共有を行った。



新規就農者生産者への聞き取り

## (2) 産地主体による新規就農者の掘起し

生産部会関係者主体で、県内外への就農募集PRやオンライン募集等による、コロナ禍の中での就農募集を図り、新規就農者の掘起しを図った。

### ア 秋芳梨組合

- ・やまぐち農の継活スタートアップ支援事業を活用した、産地紹介や新規就農者募集に関するホームページの作成を支援した。



募集ホームページ作成



梨組合長による募集呼びかけ

## イ 小野田アスパラ部会

- ・就農モデルを参考として就農募集PRに向けたチラシを作成し関係機関で共有した。これらを就農相談等で活用し、新規就農希望者の掘り起こしに取り組んだ。
- ・県外の相談者については、リモート相談での対応も行った。産地の情報提供を行うことで、相談者の就農への理解促進に努めた。
- ・また、農業体験や研修の受入れ可能農家を事前にリストアップすることで、相談

者への対応が円滑に行えるよう受入れ体制を整えた。



リモートによる就農相談



ガイダンスでの就農相談

### (3) 新規就農者の産地への受入

就農準備がスムーズに進められるよう、生産部会が自主的に進められる受入体制の構築（就農の流れ、既存園地継承や遊休ハウス・機械の条件整理、技術習得のための研修体制、就農後の定着支援等）を図った。

#### ア 秋芳梨組合

- ・産地協議会を活用し、R4年度の就農予定者をスムーズに産地で受け入れられる支援体制について協議した。
- ・新規就農者と地域の農業者とのつながりを強化するため、4Hクラブ活動と連携し交流会の開催支援を行った。
- ・梨組合及び梨女性部と連携し、女性部を対象に就農者の定着に関する聞き取り調査を実施した。
- ・新規就農者の妻等、梨を栽培する若手女性の話し合いの場づくりを支援した。



若手女性の話し合いの場

#### イ 小野田アスパラ部会

- ・就農希望者の研修受入れにむけ、研修カリキュラムの作成を部会で行った。個人での長期の研修受入れが難しかったことから、受入可能な3戸で分担し、就農希望者の研修を受け入れた。
- ・今回研修を受け入れた就農希望者については、農地・住宅の確保や本人の意欲低下により、就農を断念する結果となった。この結果より、研修前に農業経営の現実をよく理解してもらうこと、農地・住宅の目途がついていることなど、研修前に解決しておくべき課題を整理することができた。



研修受入れ農家による反省会

### (4) 新規就農者の定着

就農者の定着のため、関係機関による合意形成(産地ビジョン作成、JA や生産組織、部会員自らが既存産地存続・新規産地育成)に向けて自主的に新規就農者受入活動する意思確認に取り組んだ。

#### ア 秋芳梨組合

- ・梨組合技術指導部と連携し、技術習得への支援を行った。また、サポートチームによるフォローアップを通じて経営状況の把握を行った。

#### イ 小野田アスパラ部会

- ・新規就農者について巡回等を実施し、技術指導を行った。また、サポートチームによるフォローアップを通じて経営状況の把握を行った。
- ・法人経営による新規就農者(従業員)の定着の取り組みとして、技術習得、運営体制整備にむけた支援を実施した。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 新規就農者の受入れ体制整備

新規就農者が参考となる就農モデル作成や産地情報の見える化、機械・施設など就農希望者とのマッチングが図れる体制ができた。

#### ア 秋芳梨組合

- ・既存の新規就農者の経営実績を基に、モデルとなる経営指標を作成することが出来た。
- ・営農意向調査により把握できた継承可能園地(2件)について、1件は来年度4月に継承を予定している。また、もう1件については、今後数年は栽培管理が可能であるため、外部への募集を行いながら継続してマッチングを行うことで合意が得られた。
- ・産地台帳の活用と梨組合への導入について、合意が得られた。

#### イ 小野田アスパラ部会

- ・新規就農者の経営を参考にした就農モデルを作成することで、関係機関のアスパラガスでの就農が意識づけされ、就農相談者へ推進する品目のひとつとしてアスパラガスが位置付けられた。
- ・また部会員の営農意向アンケートを通じて、将来的に委譲の可能性のある機械・施設が把握でき、就農希望者とのマッチングへとつなぐことができた。

#### (2) 産地主体による新規就農者の掘起し

県内外への就農募集PR、コロナ禍の中での就農募集に向け、ネット環境等を活用した、新規就農者掘起しが出来た。

#### ア 秋芳梨組合

- ・ホームページには園地継承や新規就農者の定着に向けた活動等を記載したうえで、新規就農者募集に関する情報発信を行うことが出来た。



## イ 小野田アスパラ部会

- ・就農相談会等通じて、産地情報を就農相談者に提供することができたが、コロナ禍で相談会等が中止になるなど、新たな新規就農希望者の積極的な募集には繋がらなかった。
- ・一方で、農業体験や短期研修の受入れが可能な部会員のリストアップにより、就農相談者への産地情報の提供が円滑に行えるようになった。

### (3) 新規就農者の産地への受入

生産部会が自主的に進められる就農者の受入体制の構築が出来た。

#### ア 秋芳梨組合

- ・就農計画の作成は、農業大学校と連携し作成することとなり、現在作成中。現地での研修は、梨組合が主体となり受け入れることとなり、土壌改良や剪定などの研修へ受け入れることが出来た。
- ・聞き取り調査を取りまとめた結果、技術習得・雇用の確保・コミュニケーションの強化等の課題が整理できた。梨組合や関係機関での共有に向けて調整を行っている。
- ・4Hクラブ員と新規就農者との交流会は3月の実施に向けて準備中。交流会の準備を通じて、新規就農者がどのようなことに困っているのか新規就農者目線で考えることができた。
- ・若手女性の課題や取組方向が整理された。

#### イ 小野田アスパラ部会

- ・長期研修の受入れにむけ、1戸では受入れが難しい場合でも複数戸で研修を受入れる体制が整った。また、長期研修に入る前に就農希望者が目途をつけておくべきことや理解しておくべきことが整理され、関係機関で共有された。

### (4) 新規就農者の定着

関係機関との定期的な情報交換により新規就農者定着に向けた合意形成が図られた。

#### ア 秋芳梨組合

- ・技術習得への支援体制は整ってきたが、習得度合いは個人差があるため、継続した支援が必要となっている。

#### イ 小野田アスパラ部会

- ・新規就農者については、順調に収穫量を伸ばしていくことで、経営の安定が図れるため、継続した支援が必要となる。部会を通じた定期的な巡回指導体制が整いつつあるが、今後も支援を継続していく必要がある。
- ・法人経営については、運営体制が徐々に整いつつあるが、今後出荷が本格化していくため、技術習得、運営体制整備にむけた支援を継続していく。

## 4 今後の普及活動に向けて

- ・新規就農者への園地継承を行ってきた秋芳梨生産組合の取組を参考に、小野田アスパラ部会の取組をモデルとして位置づけ、関係機関との連携の下、産地が主体となった新規就農者の募集から定着までの一貫した受入体制の強化を図ってきた。
- ・今後は、宇部ハウス園芸組合やトマト出荷協議会等での産地での受入れ体制整備の拡大が必要となっている。
- ・各産地での新規就農者の募集進め、産地の拡大を図ることを目的に活動を進めていく。